



# 沖縄国際映画祭 きょう開幕

## 笑いと平和 発信

「第6回沖縄国際映画祭」(同実行委員会主催)が20日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター周辺や那覇市などで開幕する。期間中、長編映画の上映から、地域発信型プロジェクト、音楽イベントやお笑いライブまで、多彩なプログラムが繰り広げられる。24日まで。

### 宜野湾・那覇などで24日まで

映画祭は「Laugh&Peace(笑いと平和)」をコンセプトに、映画・映画の素晴らしさを広めるとともに、コンテンツ産業の振興や地域の活性化に貢献するのを目的としている。観客を通じて人々の心をつなぐとともに、コンテンツ産業のテーマに掲げる。



宜野湾市のトロピカルビーチに敷設されたレッドカーペット。21日には、世界中から集まったスターや映画関係者が闊歩する

### ビーチにレッドカーペット・巨大スクリーン

#### 被災地の『いま』きょう上映会



トロピカルビーチに設営されたステージでは、さまざまなイベントが催されるほか、夜は巨大スクリーンで映画も上映される

宜野湾トロピカルビーチのステージには、スイスカから持ち込まれた世界最大級の移動式野外スクリーン「Cine Screen 400」が設置される。スクリーンの幅26.65m、高さ14.76mの大きさで、一度に最大8千人が鑑賞できる。

巨大なオーブンエアスクリーンで上映するのは、昨年未だに公開され、臨場感のある映像が話題を呼んだ「ゼロ・グラビティ」。さらに、沖縄出身のレゲエタレント「I-VAN」の9年間に密着した「ジャマイカ日記 ウソみたいなホントの話」も上映する。満天の星の下、圧倒的なスケール感と開放感に包まれながら、いつもとは違う映画体験を満喫できる。

ビーチステージでは20日、ロサンと全国の中学生が東日本大震災の被災地を訪問したドキュメントムービー「写真で綴る、被災地の『いま』」を発表する上映イベントも開催される。



「写真で綴る、被災地の『いま』」 © Smilie Tohoku Project

期間中、沖縄コンベンションセンターと那覇市の国際通りに「レッドカーペット」が登場。映画関係者や出演者、よしもと所属の人気芸人らが会場に敷き詰められた深紅のカーペットを歩き、詰めかけたファンの応援に応える。

21日は宜野湾トロピカルビーチの特設ステージでオープニングセレモニーも開かれる。

沖繩コンベンションセンターや那覇市の桜坂劇場を中心に、国内外のさまざまな映画を上映する。主なコンベンションとして「Laugh部門」「Peace部門」が設けられ、コメディや恋愛、人間ドラマなど国内外の多彩な11作品がスクリーンを飾る。

公募で選ばれたファン審査員と、観客のアンケート投票で海人賞グランプリを各部門1本ずつ選出。さらに国際的に活躍する特別審査員が、両部門を通じた1作品に審査員特別賞として「ゴールデンソーサー賞(金石獅子賞)」を贈る。

### ソーサーだより

フェリーの映画のワンシーンに、一面の雪景色の中、防波堤を数人の少年たちが何かを目指して駆け抜ける場面がある。大粒の雪が海風に流され降りしきっている。雪のカーテンの中でふと、一人の少年が、肩に舞い降りる白いものに違和感を覚える。白い雪の重さ冷たさとは違う。少年は空を見上げ、それが桜の花びらの一枚だと気づく。少年は大声で叫ぶ。

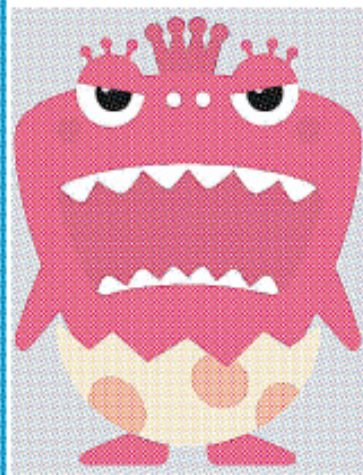
「春だー！」

東京や大阪から那覇空港に降り立ち、沖縄国際映画祭の開会式レッドカーペットの式典に立ち会った時、今年もまた心の底から春が来たことを全身の細胞が実感する。だから沖縄は美しい！

だから映画祭は美しい！

今年も国内、海外から目を覚ます作品が集まった。韓国大ヒット作、ゴリラがプロ野球ヒーローになる最新CGの粋を極めた「ミスターGO!」、全米初登場1位「ジャッカス」、ベン・スティラー監督話題作「LIFE!」。行定勲監督「田中」、ほかドイツ、インド、デンマークからも驚愕の最新作が届いた。21日夜には宜野湾ビーチステージの巨大スクリーンでアカデミー賞監督賞に輝く「ゼロ・グラビティ」が上演される。すべて無料だ。

映画を見よう。世界を知ろう。感動は国境を越え、必ずや地球上に平和のリボンを結んでくれる。シリアのために、ウクライナのために、片時、スマホの電源を切って自分をゼロに戻してみよう！



# 審査委員長 中島貞夫映画監督に聞く 興行でできる作品を



中島貞夫監督

本年度の沖縄国際映画祭を務めてきた、いわば映画祭の先導でもある。h&Pace部門の審査委員長を務めるのは、日本映画界を代表する映画監督・中島貞夫。長年、京都映画祭の総合プロデューサーを務めてきた、いわば映画祭の先導でもある。

「京都以外にも、これまで映画祭のお声がかかることは幾度かありまして、かつては北海道のゆうばり国際・日韓ファンタスティックを務めてきた、いわば映画祭の先導でもある。」

「京都以外にも、これまで映画祭のお声がかかることは幾度かありまして、かつては北海道のゆうばり国際・日韓ファンタスティックを務めてきた、いわば映画祭の先導でもある。」

「映画祭はそれぞれ特徴がなくて面白くない。京都は映画祭の地といふこともあって、クラシックで正統派な形をとってきまして、沖繩はゴメディーが多いし、明るく開放的なイメージがあります。これから審査のために世界各国の作品を見たいのですが、まずは自分自身が大きいに楽しみたいですね。」

「最初に訪れたときは1960年代。また「入国」のためパスポートが必要な時代でしたが、返還直後に再訪したときは沖繩の人たちが俄然誇らしげな見た目のです。90年代にも沖繩でロケしましたし、それ以前も

以後もプライベートで何度も沖繩を訪れていますが、何か魅かれるというか、やはり大好きな場所ですね。」

「この映画祭は、どうあるべきだろうか?」

「今の映画は制作費が良すぎると思っています。でも僕は、たとえ行儀が悪くても自分の作りたいものを作れど、特に若い世代には言いたいし、ただ単に作るだけでなく、必ず興行できるといった視点で映画を作り続けてほしい。そのプレゼンテーションの場として、若い世代にはほとんど映画祭を利用してほしい、そのために映画祭は機能していくべきだと思います。」

## ジャマイカの魅力発信 きょう 19時半 I-VAN密着映画



I-VAN (宜野湾市出身ダンサー)

宜野湾市出身で、本場ジャマイカのレゲエダンスワールドチャンピオンに輝いたダンサーI-VANに密着したドキュメンタリー映画「ジャマイカ日記 ウンみたいなホントの話」が、きょう19時半からヒートステジのオープンエアスクリーンで上映される。「このあたりは高校時代にいつも来ていた場所。ここで映画が上映されるなんて本当

にうれしい」と喜びを隠せない様子を捉えた。

「何年もジャマイカと日本を往復し、「ジャマイカと沖繩は気候、食べ物、歴史も似ている」と共通点を感じているという。「映画を観れば、ジャマイカのすべてがわかる。ぜひ観てもらいたい」と呼びかける。18時50分から自身がプロデュースするイベント「I-VANナイト」も開催される。

## デルシネ楽しもう 後藤監督、魅力語る



「観るシネマ」から「出るシネマ」へ。昨年大きな反響を呼んだ観客参加型上映プログラム「デルシネ」が、今年も沖繩市と浦添市の地域会場で上映される。あらかじめエキストラの出演シーンを抜いて編集した未完成の短編映画「エル・シユリケンVS悪魔の発明」を、観客と一緒に完成させる試みだ。すでに去

る16日、北谷町・美浜メディアステーションでの撮影と上映を終え、「徐々にデルシネの楽しさが広がっている」という後藤ひろひと監督に話を聞いた。

「昨年の沖縄国際映画祭でもデルシネの反応が特によかったですね。楽しみに参加してくれました。さらに今年は、地域会場で出来る意味も大きい。北谷

でも皆さん、自分たちの町のお祭り」として、自然な流れで参加してくれました。司会のしるまで引っぱり込んでいましたから(笑)。でも、そうやってタレントと共演できたことも子どもたちの思い出に残ると思っています。」

実はデルシネがデビューだったという俳優がいくつか出てきてくれたら、後藤監督の夢も広がる。「お客さんの出演がないと成り立たない映画は、世界中の映画祭を見渡しても他にないはず。テーマパークに遊びに来る感覚で一緒に楽しんでもらいたいですね。」

## 芸人たちの奮闘 毎日無料で配信 デイリーよしもと



よしもとの「現場」という今を切り取ってオリジナルの動画やニュースを毎日無料でお届けしている「デイリーよしもと」。沖縄国際映画祭中は、沖繩各地からよしもとの奮闘ぶりをお伝えします。

映画祭を前に、いち早く沖繩にやってきたのは宮川大輔と千鳥。「(今年は)国際通りでのレッドカーペットが楽しみ」という宮川。でも、レッドカーペットを歩いているときは意外と寒くて大変とのこと。過去に歩いたレッドカーペットで、竹中直人さんも驚いてはった」と当時のエピソードを告白していました。そんな3人のレッドカーペット話の詳しい内容はこちらから!



https://www.youtube.com/watch?v=NogcDKx5EsE

## 世界の記者が見た沖縄国際映画祭 イギリス 地元密着珍しい



「BLUQUIN ART INFO」アジア代表 芸術雑誌に記事を寄稿しているという任事柄、毎年、世界中の映画祭を取材しています。

沖縄国際映画祭は今年で3回目ですが、大好きな映画祭の一つです。「ラフ&ピース」をコンセプトに掲げたり、コメディに特化したり、さまざまなイベントも開催したりというのがユニークだし、これほど地元根差した映画祭というのも珍しい。沖繩のカジュアルな雰囲気も相まって、とても幸せな気分をさせてくれます。今年は宜野湾だけでなく、那覇でもレッドカーペットが開催されるなど、年を追うごとに成長していくのも楽しみです。

ここからその沖縄体験で迎える本格的リゾートモール  
**イオンモール沖縄ライカム**  
いよいよ来春誕生!!

※沖縄移住の文化や自然の魅力を伝えることが、沖縄に生かされる観光客が、同じ沖縄で同じように楽しめる場所イオンモール沖縄ライカム。

日々の暮らしがもっと便利に、もっと豊かになるよう店舗と、ワクワクするようショップを揃えて提供するとともに、観光客にも楽しめる「メイドインジャパン」の文化体験場、日本発祥の食文化エンターテインメントも盛り込みました。

東洋アジアを代表する数々、楽しみあふれるリゾートモールがいよいよ誕生します。

|  |   |
|--|---|
| <p><b>■計画概要</b></p> <p>名 称：イオンモール沖縄ライカム</p> <p>所在地：沖縄県中郡北谷町アヲサ地区(宜野湾市北谷)</p> <p>敷 地面積：約175,000㎡</p> <p>延 床面積：約100,000㎡</p> <p>敷 地面積：約4,000㎡</p> <p>オープン予定：2015年春</p> | <p><b>■アクセス</b></p> <p>【自動車から】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄自動車道(那覇)から約3km</li> <li>・那覇空港(那覇)から約10km</li> <li>・北谷ICから約3km</li> </ul> <p>【公共交通機関から】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇空港(那覇)から約10km</li> <li>・北谷ICから約3km</li> </ul> <p>【バスから】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇空港(那覇)から約10km</li> <li>・北谷ICから約3km</li> </ul> |
|--|---|

イオンモール沖縄ライカム